

第9回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成28年11月1日（火） 13:00 - 15:00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、薬師寺座長代理、市川委員、小野田委員、倉本委員、藤井委員

(2) 政府側（宇宙開発戦略推進事務局）

高田局長、佐伯審議官、行松参事官、高見参事官、松井参事官

(3) 説明者等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 堀内課長、奥野企画官
JAXA 宇宙科学研究所 常田所長

4. 議事要旨

(1) 平成29年度概算要求における宇宙関係予算について

資料1に基づき、事務局から平成29年度概算要求における宇宙関係予算の集計結果について報告を行った。その後、資料2に基づき、JAXAから平成29年度概算要求のうち、宇宙科学・探査について報告を行った。これらを踏まえ、委員から以下のような意見等があった。（以下、質問・意見等、：回答）

X線天文衛星ひとみ代替機の開発において、米国からの費用負担はどの程度か。

80Mドルと聞いている。前回とほぼ同額であり、主にハードウェアを製造する経費である。

臼田新宇宙探査用地上局の整備は、何年計画でどのような内容なのか。

26年度から31年度までの6年間で約111億円をかけてアンテナなど基本設備を整備し、その後受信機等の高度化を図っていく予定。はやぶさ2の設計運用が終わった後も整備していくことを考えている。

X線天文衛星代替機の開発において、文書化等の対策費用は15億円と説明があったが、これは衛星本体開発費用の1割くらいに相当するものであり、標準的な割合なのか。

衛星本体費用の規模や代替機の開発費用がないことを考慮すると、この割合は妥当であると考えている。

はやぶさ2のサンプルを持ち帰った場合、ISASは分析研究を自らどこまで行い、どこまで他機関の支援をするのか。例えば、サンプルの分析費用は他機関が科研費などを使うのか。

I S A S が行うべき研究と外の機関が行う研究とを分けて競合しないように考えていきたい。I S A S が相手方にどこまで研究費を負担していただくか、どのように支援していくのかについては今後検討していく。

(2) 宇宙科学・探査に関する工程表の改訂について

資料 3 に基づき、事務局より、工程表改訂の進め方等について説明を行った。また、JAXA より資料 4 に基づき宇宙科学・探査分野工程表の取り組み状況について報告を行った。これらを踏まえ、委員から議論を行った。議論の概要は以下の通り。

工程表中の公募型小型 2、3 の事業開始の定義を明確にした方が良いとの意見があり、今後、整理をしていくこととなった。

「戦略的中型衛星」や「公募型小型衛星」の定義を明確にすべきであり、日本のロケットで打ち上げるものか、プロジェクト費用の規模や対象範囲なども明確にすべきである、との意見があった。

S P I C A の今後の実現について質問があり、国際協力なので今後の進展次第であるとの回答があった。

宇宙基本計画工程表のうち、宇宙科学・探査部分をどのように改訂するか等については、座長に一任することとなった。

(3) その他 (今後の宇宙科学・探査等について)

来年度末に I S E F 2 が予定されており、有人探査の枠組みで月・火星探査の在り方などが議論されることが想定される。このような有人宇宙探査と科学探査の関係性について、今後小委員会で議論を行うために、今後の議論の進め方等について座長より紹介を行った。本件については、年明け頃から本格的に議論を進めてく予定。

以 上